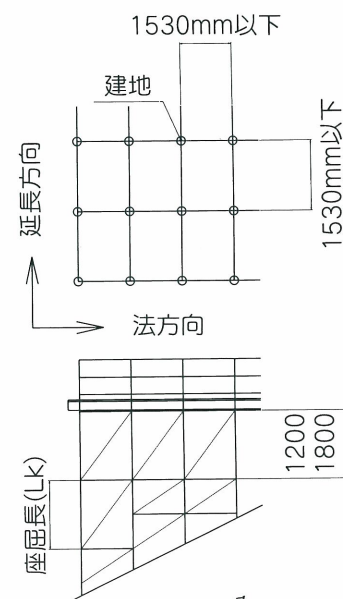


主 仕 様

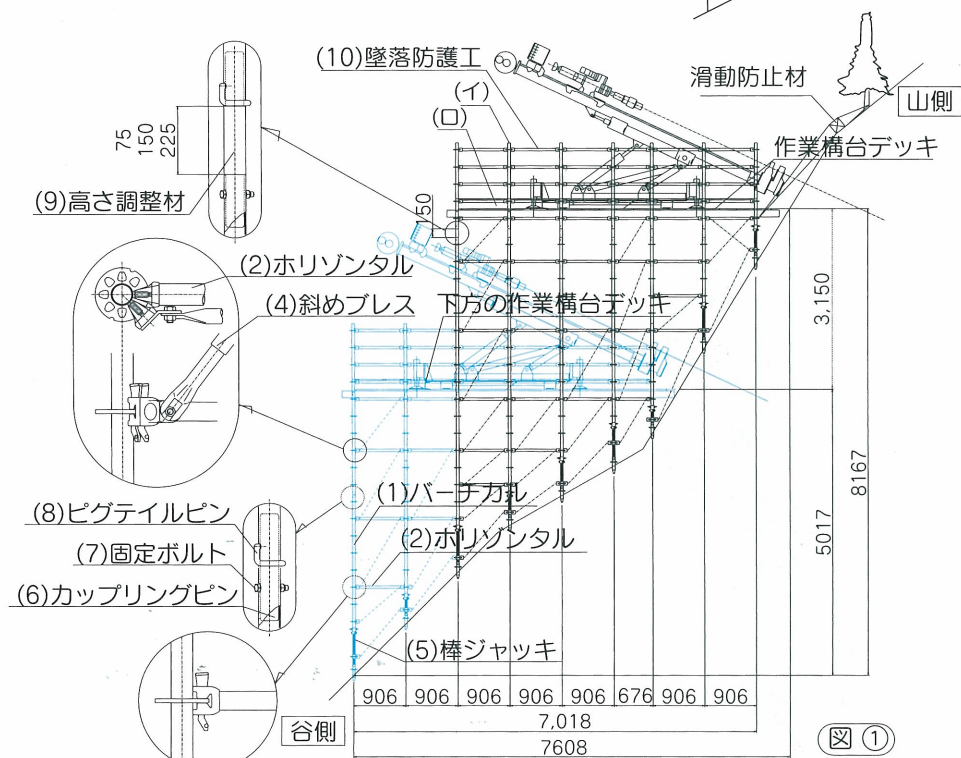
バーチカル(建地)の間隔	1530mm以下(法方向及び延長方向共)			
水平(水平材)の垂直間隔 (斜めプレスの垂直取付間隔)	荷重区分(搭載する削孔機等の重量)			
	2トン未満	2~4トン	4~6トン	6~9トン
	1800mm以下	1800mm以下	1200mm以下	1200mm以下
バーチカル(建地)の許容支持力	座掘長(Lk)=1800mm		2600kgf	
	座掘長(Lk)=1200mm		5000kgf	



構成部材

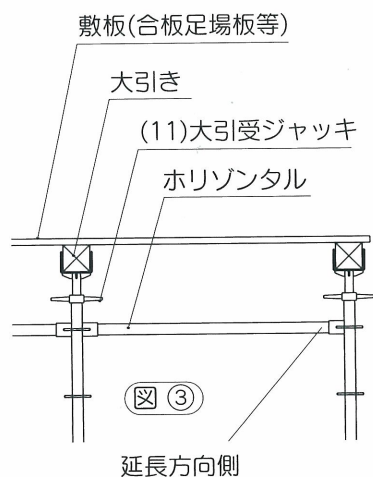
- (1) バーチカル(建地)
- (2) 水平(水平材)
- (3) 強力水平 又は
下部支持フレーム
(作業構台デッキ受け工法
その1 に使用)

- (4) 斜めプレス
- (5) 棒ジャッキ
- (6) カップリングピン
- (7) 固定ボルト
- (8) ピグテイルピン
- (9) 高さ調整材
- (10) 墜落防護工
(イ) 手摺&手摺柱
(ロ) 幅木(つま先板)
- (11) 大引受ジャッキ
(作業構台デッキ受け工法
その2 に使用)

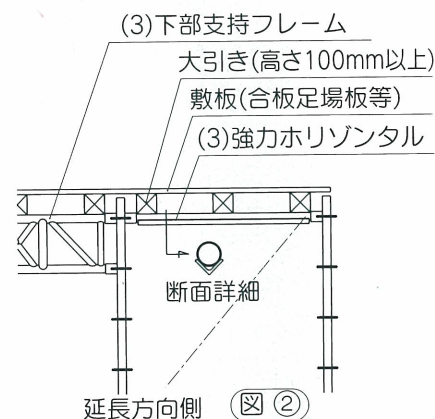


作業構台デッキ受け工法

- その1 強力水平又は下部支持フレーム上に大引きを載せて敷板等を敷く方法(図②)



大引きは、強力水平又は下部支持フレーム上に配材するので、作業構台デッキを図①のように下方にも設けるような場合に適した工法です



- その2 支柱上端に大引受ジャッキを取付け、その上に大引きを載せて敷板等を敷く方法(図③)

大引きは、支柱上端に取りつけられた大引受ジャッキに配材するのでバーチカルは直に荷重を受ける
重量が大きな機械を載せる場合、作業構台デッキを最上段にだけ設けるような場合に適した工法です

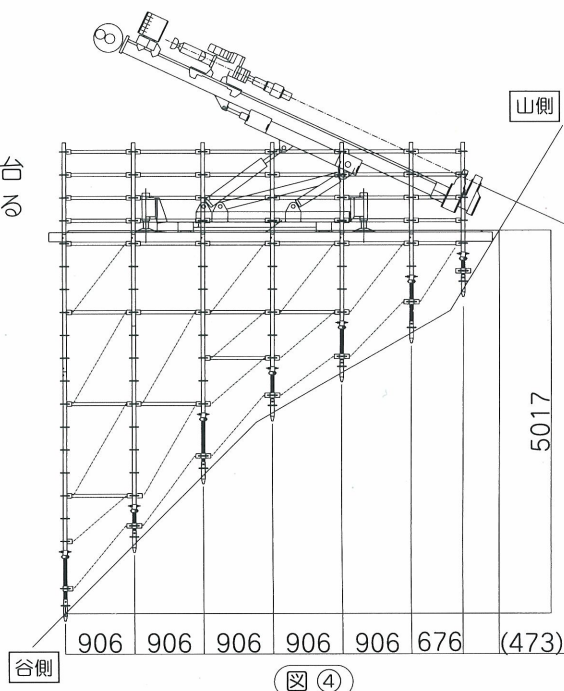
谷側に盛り替える時の作業手順

左図①は、山岳から谷側に向かって上部足場を解体して下方の作業構台デッキに削孔機を盛り替えて削孔工事を行なう場合の計画例である

ー盛替え手順ー

- ①削孔機をクレーンで吊上げて別置きする
- ②下方の足場に滑動防止剤(必要な場合)を採る
- ③上部の足場等を解体する
- ④下方の作業構台デッキの周囲に手摺を設ける
- ⑤再び、削孔機を搭載する
- ⑥盛替え終了(図④)

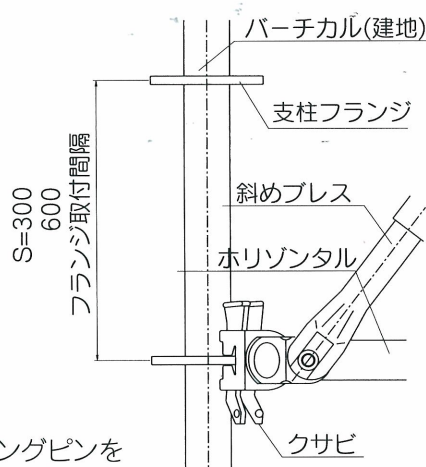
尚、下方の作業構台デッキは上部の足場解体時の作業床としても使用するので、足場組立時に組立てておく



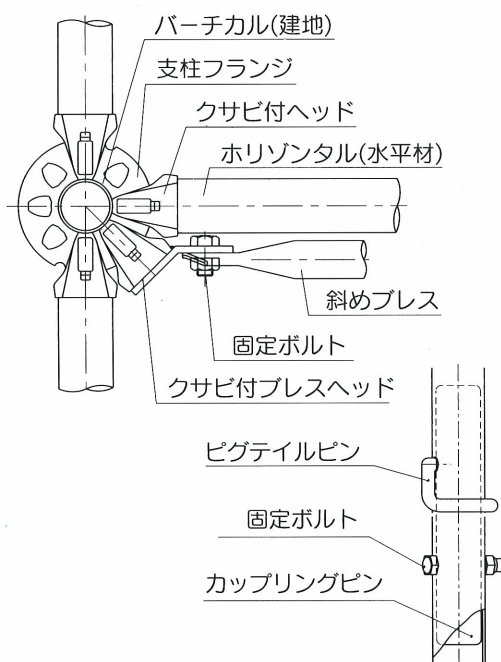
組立・解体

水平(水平材)及び斜めプレスのバーチカルへの固定
それぞれの部材の両端に取付けられたクサビ付ヘッド(斜めプレスはプレスヘッド)を所定のフランジに差込み、クサビを打込んで固定する

フランジの間隔	
品番	間隔
VPM-*	S=600mm
VPMS-*	S=300mm

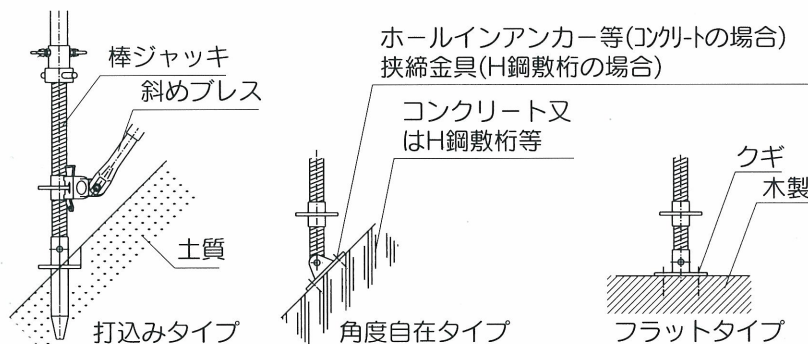


バーチカル(建地)の接続
バーチカルを継足す場合はカップリングピンを使用してピグテイルピンで固定する



法面への設置

法面の接地状態に合わせて、棒ジャッキの先端金具(脱着式)3タイプの中から選択します



機能・特徴

- ①アンジュレーションの多い法面工事場所においても、可変フランジ付棒ジャッキの使用により、斜めプレス(根ガラミ兼用)が容易に取り付けられる。
- ②組立・解体は熟練者でなくとも安全・確実・簡単迅速に出来ます。
- ③組立・解体時、ハンマー以外の特殊工具は要りません。
- ④構台上周囲には、墜落防護工等の機能を有する。
- ⑤組立後の重機・削孔機等の振動によるクサビの緩みはありません。
- ⑥ドブメッキ仕上げで防錆性に優れています。
- ⑦各部材は最小限の大きさで、人手による運搬ができます。